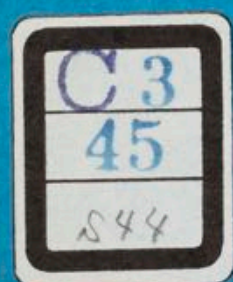


東京大学

# 東洋文化研究所概要

昭和44年6月



東京大学東洋文化研究所

東京大学図書

<10>6470040038

---

東京大学東洋文化研究所



東洋文化研究所



## I 沿革

本研究所は、昭和16年11月26日、勅令第1,012号をもって、東京帝国大学に附置創設された。当初は哲学・文学・史学部門、法律・政治部門、経済・商業部門の3部門で発足したが、官制公布後まもなく太平洋戦争の勃発により、拡張計画は中絶し、戦後ようやく昭和24年1月にいたって新たに3部門が増設された。その結果、部門組織を細分して、哲学・宗教部門、文学・言語部門、歴史部門、美術史・考古学部門、法律・政治部門および経済・商業部門の6部門に再編成した。ついで昭和26年に文化人類学と人文地理学、さらに昭和35年には、研究体制を地域区分に対応させて整備する将来計画にもとづき、南アジア部門、昭和39年に東北アジア部門が増設され、昭和43年に西アジア歴史・文化部門が新設されて、計11部門を擁することとなった。また昭和41年には東洋学文献センターが附属研究施設として設置された。

## II 目的と構成

本研究所は、日本を含むアジア諸地域の政治・経済・社会・文化・歴史などの組織的、総合的研究を目的としている。もちろん、現在の程度の規模をもってしては、広汎なアジア諸地域における諸般の問題を同時に究明することは望みえないので、研究者の専門にしたがって、重点的に課題を選ぶとともに、各専門分野の孤立を避けるため、合同の研究会によって研究者間に共通の問題意識を育てつつ、個別的には達成しがたい総合研究の実を挙げるよう努めている。また、研究陣容の補強を図るため、毎年の研究計画に従って、学内および学外からも専門研究者に研究を委嘱し、研究班に協力を求める方針をとっている。アジア諸地域の研究は、問題山積の状況にあり、今後とも重要性が増大する一方であること、本研究所が現在、アジア研究のセンターとして、本学に特設さ

A33384

れた唯一の研究機関であることを考え合わせると、この程度の組織機構では、まだいかにも不十分である。従来日本の学界に蓄積の乏しい領域を開拓すべき研究者の養成に努力しつつ、地域全体を対象とした初期の学科別部門編成から、さらに東アジア、東北アジア、東南アジア、南アジア、西アジアおよび内陸アジアのような地域区分にしたがって、これらの研究部門を整備し得る規模にまで陣容の拡大されることを期待している。

## 教 職 員

### 教 官

#### 汎アジア経済

教授 川野重任      講師 山田三郎

#### 汎アジア人文地理学

教授 大野盛雄      講師 高橋 彰

#### 汎アジア文化人類学

教授 泉 靖一      助教授 中根千枝      助手 松谷敏雄

青木 保

#### 東アジア政治・法律

助教授 関 寛治      松井 透      助手 森 利一

#### 東アジア歴史

教授 佐伯有一      助教授(休) 松本善海      助手 浜島敦俊

加藤祐三

#### 東アジア美術史・考古学

教授 鈴木 敬

#### 東アジア哲学・宗教

教授 窪 徳忠      助教授 鎌田茂雄      助手 蜂屋邦雄

#### 東アジア文学

教授 築島謙三      助教授 尾上兼英      助手 山之内正彦

## 南アジア政治・経済

教授 荒松雄 (併) 山本達郎 助教授 山崎利男  
助手 長崎暢子 池端雪浦

## 東北アジア

教授 橋本秀一

## 西アジア歴史・文化

教授 小口偉一 助教授 深井晋司 助手 江島恵教 黒田和彦  
佐藤次高

## 職員

事務長 新井康次 総務主任 大嶋真治

庶務掛 掛長 五木田浩 事務官 館野照政

用務員 溝呂木静雄 橋本公治 竹内竹司

会計掛 掛長 (併) 大嶋真治 事務官 花島 栄 吉沢国太郎

赤沢トキ子 小沢敦美 技官 和田秀雄

図書掛 掛長 植谷忠雄 事務官 江原千代子 中村隆治 中村摩利子

中田 実 中村敬子 半沢哲郎 風間 勉 長野 真

小野悠紀子

調査掛 主任 今城治子 事務官 羽石咸子 佐多正子 比護みどり

技官 古山 学 千代延恵正 木村源蔵

## Ⅲ 設 備

### 1. 建 物

本研究所は、当初、本学構内に建物をもつことが予定されていたが、戦争の拡大により計画の実現が不可能となったので、暫時、本学附属図書館内に研究室、書庫、事務室を置いた。昭和23年4月1日、外務省所管の東方文化学院の

解消をみるに及んで、同年7月に同学院東京研究所の所在地であった大塚に本拠を移すこととなり、外務省研修所と同居という暫定的な形で、旧学院の建物の一半を使用し、従来利用していた附属図書館研究室の一部を分室とした。このように、研究施設としてまことに遺憾の多い状況のまま20年余を数えるにいたったが、さいわい本郷構内に建物を新築する計画が具体化し、その第1期工事の完成にともない、昭和40年10月に研究室の一部と事務室が移転した。さらに、昭和42年3月には第2期工事が完成したので、残りの研究室、書庫、図書事務室、および東洋学文献センターが移転した。昭和43年度には、総合研究資料館の増設にともなう第3期工事として、研究室、事務室や書庫の一部が改築移転した。

## 2. 図 書

本研究所に収蔵する図書資料は総数260,000冊に及び、平均年間約5,000余冊ずつ増加している。収蔵するに至った主なものをあげると、創設当初、大木幹一氏から中国法制関係書を主とした漢籍45,000余冊の寄贈があり、附属図書館からも相当数の東洋学関係書が移管された。東方文化学院解消後は、同学院蔵書10数万冊（和漢洋）をも使用することとなった。また、帝国学士院東亜諸民族調査室の解散にともない、戦後その蔵書2,000冊（和漢洋）の移管を受けた。文部省科学研究費交付金による購入書としては、昭和25年度に松本忠雄氏旧蔵の東亜外交関係書3,000余冊（和漢洋）、同26,28年度に長沢規矩也氏所蔵の多数の希覯書を含む中国戯曲小説関係書3,000余冊（漢）があり、さらに同27,28両年度には矢吹慶輝、清野謙次両氏の旧蔵書800余冊（洋）を購入したが、これは前記帝国学士院からの移管書とともに人類学・民族学関係の重要資料となっている。また昭和33年度から昭和40年度まで、文部省科学研究費による総合研究「アジア地域の社会」および特定研究「アジア・アフリカ地域研究」の一環として関係資料を多数蒐集した。昭和27年度から5ヵ年にわたり下中弥三郎氏より、主として戦後中国・朝鮮で刊行された人文・社会科学関係書4,000余

冊の寄贈を受けたが、その後もこの関係の書を鋭意継続して蒐集している。なお、昭和38年に、東京銀行調査部から主として経済関係の図書15,000冊（和漢洋）の寄贈を受けた。昭和42,43年度には故仁井田陞博士の蔵書2,700冊（主に漢籍）を寄贈および購入により受け入れた。（東洋学文献センターの項参照）

## IV 刊 行 物

### 1. 定期刊行物

- (1) 東洋文化研究所紀要 昭和18年12月に創刊，同43年度に第47冊から第49冊まで刊行し，本年度は第50冊から第52冊まで刊行する予定。第10～12の3冊と第25～28の4冊は，それぞれ本研究所創立15周年並びに20周年記念号であり，第41～44の4冊は創立25周年記念号である。
- (2) 東洋文化 昭和19年10月に創刊し昭和24年5月にその第11号を発行した「東洋文化研究」を継承したもので，昭和25年2月に創刊，同43年度に第46・47合併号を刊行し，本年度は第48号と第49号とを発行する予定。

### 2. 報 告 書

(1) 東京大学東洋文化研究所紀要別冊			発行年月
仁井田	陞	中国の農村家族	27. 8
周 藤	吉 之	中国土地制度史研究	29. 9
大 林	太 良	東南アジア大陸諸民族の親族組織	30.10
結 城	令 聞	世親唯識の研究 上	31. 1
関 野	雄	中国考古学研究	31. 3
窪	徳 忠	庚申信仰	31.11
仁井田	陞	中国法制史研究 刑法	34. 3
仁井田	陞	中国法制史研究 土地法・取引法	35. 3



米 沢 嘉 圃	中国絵画史研究	36. 3
結 城 令 聞	唯識学典籍志	37. 3
仁井田 陞	中国法制史研究 奴隸農奴法・家族村落法	37. 3
築 島 謙 三	文化心理学基礎論	37. 11
窪 徳 忠	庚申信仰の研究 年譜篇	37. 12
仁井田 陞	中国法制史研究 法と慣習・法と道德	39. 3
鎌 田 茂 雄	中国華嚴思想史の研究	40. 2
江 上 波 夫	アジア文化史研究 要説篇	40. 3
泉 靖 一	濟州島	41. 3
江 上 波 夫	アジア文化史研究 論考篇	42. 3
鈴 木 敬	明代絵画史研究・浙派	43. 1
窪 徳 忠	庚申信仰 島嶼篇	44. 3

## V 東洋学文献センター

昭和41年4月、本研究所の附属研究施設として、東洋学文献センターが設置された。本文献センターは、とくに旧中国の政治・法律および文学・演劇関係の図書、戦後中国および朝鮮の刊行物を収集し、本研究所所蔵漢籍の印刷目録を作成するなどして、広く研究者の利用に資することをめざしている。昭和41、43年度間に収集した資料は、図書5,698冊、マイクロフィルム20リール、文書類902枚であるが、昭和42・43年度には故仁井田陞博士所蔵のギルド関係を中心とする資料を購入し、合せて図書934冊、中国古文書902枚を収集した。

昭和42年度より、本文献センターの広報誌として「センター通信」を、シリーズ刊行物として「東洋学文献センター叢刊」を発行し、関係方面に配布している。「叢刊」の第1輯としては「東洋文化研究所新収図書目録（昭和41年度）」、第2—3輯として「清代地方劇資料集(1)―(2)」、第4輯として「周揚著訳論文・周揚批判文献目録」を刊行した。

## VI 海外学術調査

本研究所が海外で行なっている調査研究事業は、つぎのふたつである。

1 江上波夫元教授を団長とする東京大学イラク・イラン遺跡調査団は、昭和31～32年、34年、35年、39年、40～41年の5回にわたって、イラクおよびイランにおいて9ヵ所の古代遺跡の発掘を行ない、「文明の起源とその初期の様相」の問題という人文科学における世界共通の現代的課題の解明に努力し、また「東亜及び日本古代文明の源流としての古代イラン文明」というわが国にとって特別関心ある問題の究明に努めてきた。

昭和41年度よりわが国に将来した発掘資料、採集資料等の研究、報告に全力を投入し、本年度は昭和39年に発掘したイラク国のテル・サラサート2号丘の成果を「テル・サラサートⅡ」として、また40年に調査したイラン国ケルマンシャー郊外の歴史遺跡ターク・イ・ブスターンの成果を「ターク・イ・ブスターンⅠ」として出版する予定である。

### 東京大学イラク・イラン遺跡調査団報告書

テル・サラサート I	33. 3
マルヴ・ダシュト I	37. 3
マルヴ・ダシュト II	37. 3
フアハリアン I	38. 3
西アジアの人類学的研究 I	38. 11
デーラマン I	40. 3
デーラマン II	41. 11
デーラマン III	43. 3
西アジアの人類学的研究 II	43. 12

2 東京大学インド史蹟調査団は、山本達郎併任教授（団長）・荒松雄教授・月輪時房前助手・大島太市元研究委嘱を中心に、13世紀から16世紀に至るインドのイスラーム系建造物に関する調査研究を目的とし、昭和34、36年の2回にわたって、デリー周辺地域における諸遺跡、とくに墓建築、モスク、水利施設その他の建造物を調査し、その後諸資料の整理とそれにもとづく研究を行ってきた。その成果は『デリー、デリー諸王朝時代の建造物の研究』、第一巻「遺跡総目録」および第二巻「墓建築」として、それぞれ昭和41年・昭和42年度に出版された。

本年度は、報告書第3冊の第三巻「水利施設」を出版する予定である。作業内容としては、資料の整理、とくに各種遺跡の状況・平面・立面・断面等の諸図の作成が主たるものであり、研究面では、荒が遺跡建造物の歴史的背景と諸問題とを究明し、山本・月輪が建造物の構造と様式上の問題を研究している。

## 附表1 昭和43年度研究会

4月18日	巨然画の諸問題	戸田 禎佑
4月25日	中国思想史研究における一つの視点 ——戴震をめぐる——	溝口 雄三
5月2日	中国演劇の下部構造	田仲 一成
5月9日	アジア現代史における民族解放と冷戦	加藤 祐三
5月11日	1920年代初頭の朝鮮民族解放運動と日本帝国主義	姜 徳相 梶村 秀樹
5月23日	国防文学論争について	丸山 昇
5月30日	ワシントン会議と中国の民族運動	藤井 昇三
6月6日	開発途上国の政治変動と国際環境 政治変動研究の方法論 政治変動の量的研究	関 寛治 高島 通敏
6月13日	敬語および敬語調査と社会	野元 菊雄
6月20日	インダストリアル・ステートにおける宗教活動 ——比較文化論への宗教からのアプローチ——	井門富二夫
6月27日	〈京都大学人文科学研究所講師交換研究会〉 元朝の制度におけるモンゴルの要素	岩村 忍
7月4日	儀礼構造論の問題	柳川 啓一
9月19日	セイロン経済の構造	川野 重任
9月26日	農業発展の要因と経済の均衡成長 ——台湾の事例を中心として——	山田 三郎
10月3日	マラヤのコミナリズムと国民的統合	萩原 宣之
10月17日	開発途上国の比較分析モデル 比較発展の時系列分析	高柳 先男 関 寛治

10月24日	クレーシー教授講演会	
10月31日	ペルシア系イスラーム建築におけるヴォールディング の問題	石井 昭
11月21日	ハンムラビ時代の社会階層について 比較文化論の試み——イスラーム教徒のむらの実態調査 の体験を通して——	黒田 和彦 大野 盛雄
11月28日	シンポジウム 地域研究の諸問題	
12月 5日	西アジアにおける中世国家の成立	佐藤 次高
12月12日	4—12世紀北インドとデカンの銅板文書にみえる バラモンについて	山崎 利男
12月19日	インドにおける1857年の反乱について	長崎 暢子
1月16日	萌芽期におけるフィリピンナショナリズム——ホセ・ リサールの民族史観と民族意識を中心として——	池端 雪浦
1月23日	インドの都市人口——センサスの研究—— アシシュ・ボース マラッカ王国における国家権力形成の過程	生田 滋
1月30日	江南における均田均役法の一考察	浜島 敦俊
2月 6日	華南村落の変革	佐伯 有一
2月13日	二諦説について	江島 恵教
2月20日	日本における中国宗教の受容 ——儒教を中心として——	野田幸三郎
2月27日	15世紀末における生業, 政治組織, 宗教の諸形態 について	泉 靖一
3月 6日	都市の人類学的研究の諸前提——東南アジアの事例 を中心として—— 近世チベット政治構造について	青木 保 中根 千枝

## 附表2 昭和44年度研究計画

○印 研究担当

※印 研究委嘱

### 部門研究

- I 汎アジア経済——経済発展の基本過程 班主任 川 野
- (1) 川 野 重 任 台湾の工業化過程
- (2) 橋 本 秀 一 セイロン開発の諸問題
- (3)※滝 川 勉 フィリピンの経済発展
- (4)○逸 見 謙 三 アジアにおける農産物貿易
- (5) 山 田 三 郎 韓国の工業化過程
- II 汎アジア人文地理学 班主任 大 野
- (1) 大 野 盛 雄 生活様式論
- (2) 高 橋 彰 人文地理学における地域研究の方法
- III 汎アジア文化人類学——文化人類学の方法の諸問題 班主任 泉
- (1) 泉 靖 一 方法としての野外調査
- (2) 中 根 千 枝 社会人類学方法における歴史の考察
- (3) 松 谷 敏 雄 先史学の研究方法
- (4) 青 木 保 都市と農村の概念
- (5)※原 忠 彦 家族研究の方法
- IV 東アジア政治・法律——中国をめぐる国際政治 班主任 関
- (1)○坂 野 正 高 近代中国の政治過程(一)——光緒年間の条約論議——
- (2)○衛 藤 藩 吉 近代中国の政治過程(二)  
——ワシントン体制下の日中関係——
- (3) 関 寛 治 近代中国の政治過程(三)

—ワシントン体制下の条約論議—

V 東アジア歴史——東アジアの変革期における権力とその基盤

班主任 佐 伯

- (1)○関 野 雄 先秦時代の経済機構
- (2)○西 嶋 定 生 東アジアにおける冊封体制
- (3)※堀 敏 一 唐宋の変革と東アジア
- (4) 佐 伯 有 一 20世紀前後の中国と日本
- (5)○古 島 和 雄 中国官僚資本と後進アジア地域の資本主義
- (6)※菅 沼 正 久 中国の社会主義建設の提起する諸問題

VI 東アジア美術史・考古学——宋元仏画研究

班主任 鈴 木

- (1) 鈴 木 敬 宋元仏画の表現形式について
- (2)※川 上 涇 宋元仏画中にみる山水表現の研究
- (3)※戸 田 禎 佑 宋元仏画における花鳥表現の研究
- (4)※浜 田 隆 宋元仏画の図像学的研究

VII 東アジア哲学・宗教——中国の思想と宗教

班主任 窪

- (1)※野 田 幸 三 郎 儒教の成立と展開
- (2)※秦 本 融 中国の論理思想と仏教論理学説
- (3)※塩 入 良 道 中国における禅観思想
- (4) 鎌 田 茂 雄 唐代における仏教と道教
- (5) 蜂 屋 邦 夫 儒仏との関係における全真教々理の研究
- (6) 窪 徳 忠 元代における三教関係

VIII 東アジア文学——中国の思想と文学

班主任 尾 上

- (1)※高 田 淳 }  
※溝 口 雄 三 } 清末民初の革命思想と運動  
※西 川 正 二 }  
(2)※竹 内 実 }  
※丸 山 昇 } 1930年代文学の諸問題

尾上兼英)

IX 南アジア政治・経済——インドにおける支配体制と社会構造

班主任 荒

- (1) 山崎利男 古代インド社会の変貌
- (2) 荒松雄 中世インドにおける政治と宗教
- (3) 松井透 イギリス植民地支配とインド社会
- (4) 山崎利男 英領インドにおける司法制度
- (5) 長崎暢子 イギリス帝国主義支配と土地制度
- (6)※中村平次 現代インド政治における分化と統合  
——政党政治の消長をめぐって——
- (7) 中根千枝 現代インドにおける家族制度の研究

X 東北アジア

班主任 橋本

- (1) 橋本秀一 軍閥期の満洲経済
- (2)※姜徳相 1930年代の朝鮮民族開放闘争と東アジア
- (3)※梶村秀樹 朝鮮現代の経済政策と東アジア

XI 西アジア歴史・文化

班主任 深井

- (1) 小口偉一 西アジアにおける民族と宗教
- (2) 松谷敏雄 イラン高原における初期農耕村落
- (3) 黒田和彦 ハンムラビ時代の社会と文化
- (4) 深井晋司 パルティア・ササン朝美術の特質
- (5) 佐藤次高 西アジアの中世イスラム社会

共同研究

A 新興諸国の政治変動と国際環境

班主任 関

- (1)※高嶋通敏 政治変動の計量分析——その一——
- (2) 関寛治 政治変動の計量分析——その二——
- (3)※白鳥令 新興諸国における政治発展の概念と理論



B アジアの農村

班主任 大野

- (1) 大野盛雄 西アジアの農村
- (2) 高橋彰 東南アジアの農村
- (3) 松井透 インドの農村

C 東南アジアの国家形成

班主任 橋本

- (1) 山本達郎 越南における国家形成とその特質
- (2)※和田久徳 マラッカ王国史研究
- (3) 築島謙三 マレー人とサルタン制
- (4)※岸幸一 インドネシアの民族国家の形成とイスラミズムの役割
- (5) 池端雪浦 フィリピン革命とその伝統
- (6) 高橋彰 フィリピンのバヤム
- (7) 橋本秀一 17世紀のセイロン
- (8)※生田滋 17世紀およびそれ以前のマレーシアおよびスマトラにおける国家形成の過程の研究
- (9)※浦野起央 東南アジア政治発展の構造

D 近代日本の思想と宗教

班主任 小口

- (1) 小口偉一 }  
○柳川啓一 } 戦後における宗教集団の構造変化  
※井門富二夫 }  
※森岡清美 }
- (2)※宮川透 日本人の価値意識

E 日本の社会とことば

班主任 築島

- (1)○丸山真男 近代政治思想におけるコトバの問題
- (2)○碧海純一 社会変化と敬語
- (3) 尾上兼英 現代中国語の対人呼称
- (4) 築島謙三 外国人の見た日本語

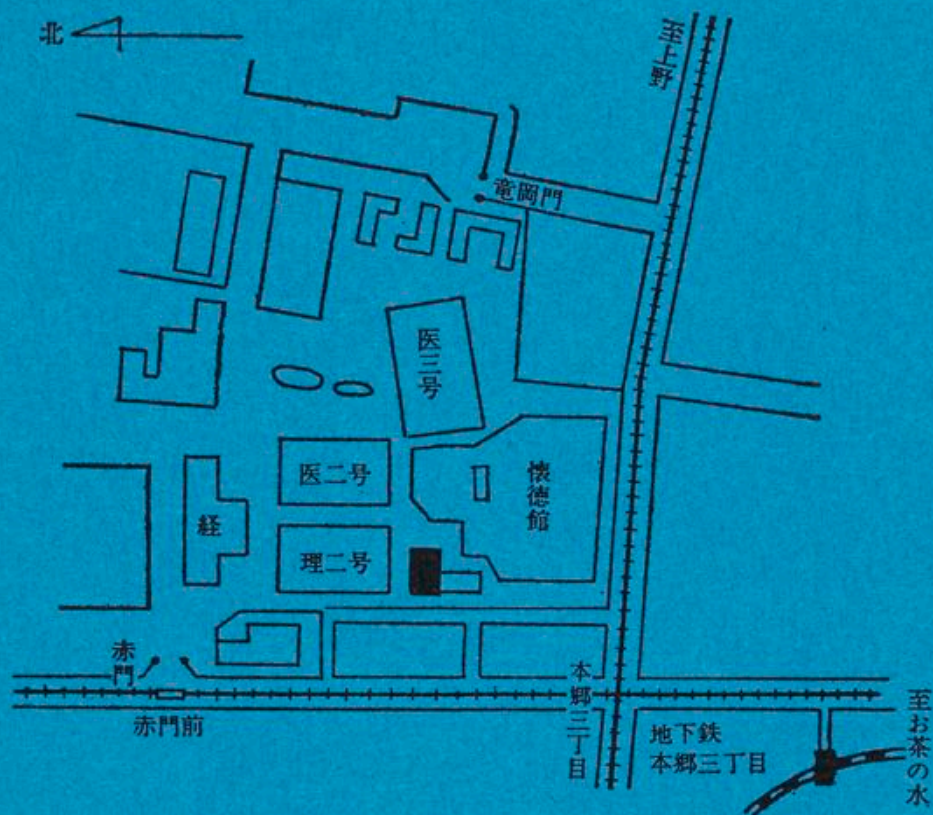
附属Ⅰ 西アジアにおける先史・歴史遺跡の研究 班主任 深井

- (1)※池田次郎 古代西アジアの人種問題
- (2)※堀内清治 古代西アジアにおけるドーム建築
- (3)※増田精一 イラン高原における彩文土器の文化
- (4) 深井晋司 ターク・イ・ブスターンの諸問題
- (5)※杉山二郎 ササン朝ペルシアの文様について

附属Ⅱ デリー諸王朝時代の建造物の研究 班主任 荒

- (1) 山本達郎 建造物よりみたインドおよびイスラーム文化の交流と変容
- (2) 荒松雄 デリーに現存するサルタナット時代の遺跡の歴史的  
研究
- (3)○月輪時房 建造物における構造と様式の研究

東洋文化研究所案内図（東大本郷構内）



昭和44年6月1日発行

編集兼発行者 東京大学東洋文化研究所

東京都文京区本郷7丁目3番1号

電話(812)2111(大代表)

印刷・製本 株式会社 三陽社

東京都板橋区板橋4-47-7